

第2期県立高校将来構想 (検討材料)

「第2期県立高校将来構想」(構成)

第1章 第2期県立高校将来構想の策定について

1 策定の趣旨

2 構想の期間

(H27~36)

第2章 高校教育を巡る現状と課題について

1 県立高校を取り巻く状況の変化

- 社会の変化
- 家庭・地域の変化
- 教育を巡る国の動き

2 県立高校の現状と課題

- 生徒の多様化
- 生徒のニーズの多様化
- 中学校卒業生数の減少

第3章 今後の県立高校の在り方について

1 めざすべき県立高校像

県立高校像を考える視点

- 生きる力の確実な育成に向けた教育の推進
- 社会の変化への対応
- 生徒の多様化への対応
- 生徒減少への対応
- 現行構想の成果と課題

基本的コンセプト

- 生徒が夢を育み、志をもって学ぶ学校
- 生徒や教職員が生き生きと活動し、活力のある学校
- 地域に愛され、地域とともにある学校

2 教育活動の充実

- 確かな学力を育成する教育の充実
- 豊かな心を育む教育の充実
- 健やかな体を育む教育の推進
- グローバル人材の育成
- ICT活用の推進 等

3 教育環境の充実

- 教職員の資質能力の向上
- 地域と連携した学校づくり 等

第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の整備再編について

1 特色ある学校づくり

- 《全日制課程の方向性》
- 《定時制課程・通信制課程の方向性》
- 《中高一貫教育の推進》

2 学校・学科の再編整備

- 《全日制課程》
- 再編整備の必要性
- 再編整備の進め方
- 望ましい学校規模
- その他

第5章 将来構想の推進について

- 実施計画の策定

第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について

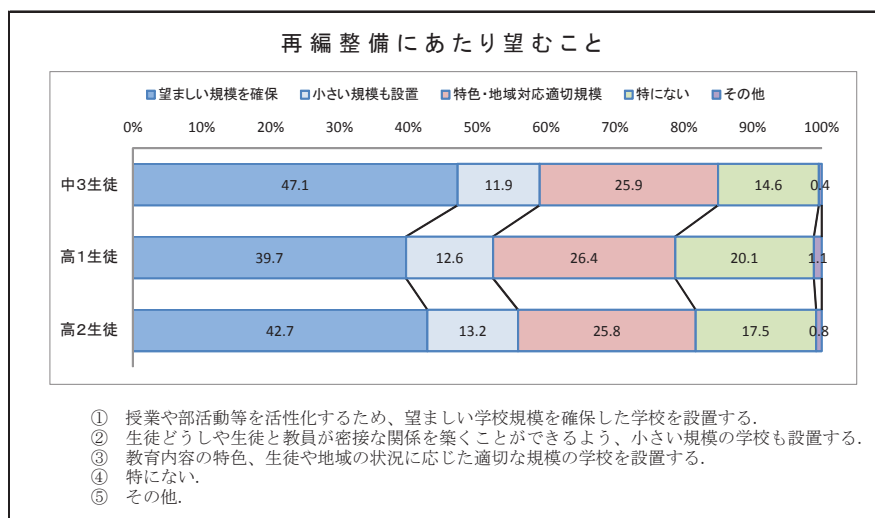
2 学校・学科の再編整備

(1) 再編整備の必要性

- 現行の県立高校将来構想に基づき、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備を進めてきた。
(全日制課程第1学年の1校あたりの募集学級数の平均)
平成16年度：全国5.65 山口県3.83 (全国最小)
平成26年度：全国5.66 山口県4.14 (全国で5番目に小さい)
- 中学校卒業見込者数の継続的な減少が見込まれる中、学校の小規模化がさらに進む。
- こうした中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要である。

(2) 望ましい学校規模

- 全日制課程の望ましい学校規模については、開設科目数、配置教員数、部活動数やアンケート結果などを考慮して、引き続き、1学級あたりの生徒数を原則40人として、1学年4～8学級とする。
- 10年後に向け、更なる生徒減少が見込まれるが、拠点的な役割をもつ学校も必要であることから、望ましい学校規模の最大は8学級とする。
- 全国的にも4～8学級としている県が過半数を占める。
- 望ましい学校規模の利点
 - ・教員数が多く、選択幅の広い多様で柔軟な教育課程が編成できる。
 - ・生徒数が多く、学校行事や生徒会活動、部活動等が活性化する。
 - ・集団の中で切磋琢磨することで社会性とたくましさを培うことができる。



学校規模別の開設科目数等の状況

	2学級規模	4学級規模	6学級規模	8学級規模
生徒数(収容定員)	240	480	720	960
開設普通科目数	19.3科目	23.3科目	26.5科目	28.5科目
教員数	17.7人	31.0人	52.5人	56.0人
部活動数	10.3部	19.7部	27.1部	32.0部

(3) 再編整備の進め方

- 中学校卒業生数、生徒の進路動向や通学事情、私立高校の配置状況などを総合的に勘案し、地域における高校の存在意義や分散型都市構造にある本県の特長も踏まえて、計画的に再編整備に取り組む。
- 全日制課程の1学年3学級以下の小規模校の再編統合を基本として、他の学校との再編統合により、望ましい学校規模の確保をめざし検討
(1学年3学級の中高一貫教育校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮)
- 1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合は、分校化を検討し、その際の最小学校規模は1学年1学級
- 全日制課程を置く分校については、将来的に入学者が定員の1/2を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討
- こうした再編整備の実施にあたっては、高校教育の質の確保を図る観点とともに、地理的条件や交通事情による生徒の教育への影響等を総合的に勘案しながら検討

(4) その他

- 再編整備の対象校であっても、以下のような特色ある教育活動により、県全体の教育効果を高めることが特に期待される場合は、当面は学校を維持することも検討
 - ・地域のコミュニティに支えられ、組織的に地域と連携した教育活動を行う学校
 - ・基礎的・基本的学力の定着と社会的な自立をめざし、学び直しや不登校等の多様な学びのニーズに対応した、柔軟で弾力的な教育活動を展開する学校

第5章 将来構想の推進

- 学校・学科の再編整備については、実施計画を策定し、年次的・計画的に推進